

# 夢湧き夢に夢中

## “働く”とは。



「この地域に残って、地域のために働いてくれる人材は育てません」

去る九月一八日から三日間、本校二年生が、村内外二九カ所の事業所の協力のもと職場体験学習に出かけ、日頃学校では学ぶことのできない貴重な体験学習に取り組んだ。

そこで、わたしも四月の赴任以来なかなか校区内を限らずとばかりに各事業所へご挨拶に出かけた。はくすい保育園に行くと、園児たちはぐっすりとお昼寝中。「もしかして一緒に寝ていたりして…」なんて思いながら園舎内を進むと、ホールで三人の人たちが黙々と折り紙を折っていた。「園児が起きたときに喜ばせたい」「もう少しで完成するんです」そう言いながら、実に凛々しい表情を見せる。園児たちとの充実した時の流れを感じさせ

る。久木野小学校にお邪魔したときもそうだった。「昼休みは子供たちと目一杯遊んでくれました」と校長先生。「子供たちが控え室の前で待っている程です」そして、教室へ案内されると、低学年の授業に入り、まるで「助手」のように児童に声をかけている姿が。「いつか一緒に働きたい」教師の卵を見つけた、と思えた瞬間だった。



「いらっしやいませ」丸野石油店さんへ行くと、威勢のいい声が早速飛び込んできた。そして、車を停めるや、すかさず窓拭きへ。日頃あまり洗車していなかった愛車が見るみる美しくなる。「よく頑張ってくれていますよ」とおっしゃる丸野さんの笑顔が嬉しくてたまらない。

職場体験では、どの事業所でも挨拶のことを言われたのではないかと推察する。特に小売店や飲食業等の接客が欠かせない業種では、何と言っても「挨拶力」がものを言う。さて、学校生活の中で培った「挨拶力」は、この三日間大いに活かされただろうか。職場体験を通じて自分のことを改めて見つめ直す機会となっていれば幸いだ。これからも実社会に通じる「挨拶力」をさらに磨こうではないか。

「もともとこの地域の出身なんですけど、長い間、他の地域で働いていました。この四月にこちらに異動してきて久しぶりに帰ってきたんです」ある事業所の方が、こう話された後、「帰ってきて改めて思いました。地元はやっぱよかですね」これまで他の地域で培ってきた経験やキャリアを、自分が生まれ育った故郷のために活かせることに生きがいを感じられていることを悟った。

冒頭の言葉は、今回、どの事業所でもおっしゃった言葉である。中学生である皆さんが、これからの南阿蘇村を担う人材として、いかに期待されているか。改めて実感した。「働く」という字は、「人が動く」と書くが、ここで託された思いとは、「人が人と地域と未来のために動いて働く」ということだと学んだ。



■9月から本校に学校栄養職員として 市原 可南子 先生が着任されました。市原先生には献立の立案をはじめ安心安全な給食の提供のために毎日ご尽力いただいています。どうぞよろしく願いいたします。学校HPに「2024 給食日記」公開中⇒

